

---

## 8. 「放置山林を高齢者の生き甲斐づくりに生かす活動」

逗子ハイランド一步の会

(助成決定後、「逗子ハイランドまちづくり会」から名称を変更)

(神奈川県逗子市)

---

### I. 活動に至った背景

私たちが住んでいる鎌倉逗子ハイランドは、昭和45年に分譲が始められた新興住宅地で、その範囲は、鎌倉市と逗子市にまたがり、現在は約1,700戸の大住宅地になっている。住宅地の東側は、《米軍家族住宅建設反対運動》で全国的に有名になった広大な池子の森に接し、南と西と北側も緑豊かな山林に囲まれ、周辺には鎌倉時代の史跡も多く、自然環境に恵まれた住宅地である。

しかし、一見、緑豊かに見える山林も、そのほとんどは、長い間、手入れもされずに放置されているため、樹木を立ち枯れさせるカズラやクズなどの蔓性植物や、アオキなどの日陰植物がはびこり、矢竹が密生して、山菜やキノコも生えず、昆虫も蝶々もない、人が入り込めないほどの藪山になっているのが実状である。

### II. 活動の目的

平成4年9月、逗子市地域計画策定委員会の一つとして発足した《逗子ハイランドまちづくり会》の討議の中から、住宅地に隣接する放置山林の問題が浮かび上がり、このような放置山林を、地域住民が安心して入山できる新しいかたちの里山にするためにはどうしたらよいかが検討された。

平成6年3月、《逗子ハイランドまちづくり会》の委託業務終了後、委員の有志を中心に《逗子ハイランド一步の会》が結成され、「放置山林を、高齢者の生き甲斐づくりと健康増進の場として活用していきたい」という目的をもつボランティア活動に入った。

一步の会は《自主・自弁・無償を基本とするボランティアグループである》《体力的に無理のない各自の力量に合ったボランティア活動をする》《集まるのが楽しみな会にする》ことを基本方針とし、会の名称には「千里の道も一歩から」という私たちの願いが込められている。

この活動には、行政と森林所有者の協力。山林活動に不可欠な、山靴などの装備。チェーンソー、山林用鋸、腰鉈、造林鎌、木鎌、唐鋤、根切り鑿などの用具や機材、山百合の球根、肥料の購入など、ボランティアだけでは到底賄いきれない資金も必要であった。この活動を円滑に進めて行くことができたのはハウジングアンドコミュニティ財団から、助成金を受けられたことが、何よりも大きな力になった。

### III. 活動の内容

一步の会の主な活動場所は、鎌倉逗子ハイランド住宅地に隣接する放置山林であるが、そのほとんどは、長い間、人手が入らず、放置されたままなので、道の上まで矢竹が密生し、倒木で道がふさがれたり、道が崩れたりして、文字どおりの藪山になっていた。

一步の会は、この1年間の活動で、放置山林の藪の切り拓き、倒木の除去、矢竹の伐採を実施し、踏み後程度だった山の道を、お年寄りや子供でも、安心して利用できる森林浴健康コースとして整備した。滑りやすい急斜面7カ所に216段の石段と丸太階段を造り、矢竹を伐採したあとには、神奈川県の花である、ヤマユリを200株植えた。



矢竹を刈って道づくり



刈った後には昔の道標が

また、展望のよい場所にベンチを設置し、11カ所に案内板を立て、今まで藪で入れなかった、頼朝と政子ゆかりの衣張山や、頼朝や実朝、後白河法皇も辿ったという巡礼古道などの由緒ある歴史の道を、誰もが安心して歩ける安全なハイキングコースとして定着させた。

一步の会の会員数は、現在16名で、男性が10名、女性が6名、最年長者は76歳、平均年齢は66歳である。

会員のなかに、山林に関係のある仕事をしてきた者は一人もいないが、本来「自然を相手に汗を流すことは楽しいもの」であり、意志さえあれば誰にでもできる活動であることを、身をもって実証したのではないだろうか。私たちが整備したハイキングコースと歴史の道の総延長は約6キロである。

#### IV. 結果と考察

『仕事が教えてくれる』という言葉がある。山仕事も同じであった。素人が初めて取り組む仕事ばかりであったが、やっているうちに、道具の使い方も、石段や丸太階段の造り方も、だんだん上手になった。その道のプロから見れば何とも頼りのない集団であるが、モタモタしていても、コツコツやれば、それなりに結果は出るものであり、『意志あれば道あり』で、老人パワーも、満更捨てたものではないと、仲間たちと自画自賛している。

逗子ハイランド一歩の会の会員が、この1年間の活動で学んだことは多い。素人の集団でも、「やれば、できるんだ」という自信が生まれ、自分たちにも信じられないような成果を残すことができた。

「これからの地域住民活動の一つのモデルになり得るものとして評価された」という、ハウジングアンドコミュニティ財団の助成理由に応えるためにも、この活動の輪を広げ、今後も努力を続けていくつもりである。



手づくりの道案内版